令和４年度　自己評価書・学校関係評価書

幼・幼保連携型

令和５年　３月１７日

真庭市立河内こども園

園長　横山　智江　印

１　河内こども園の教育保育目標

○教育・保育目標

しなやかな心と体で生き生きと生活する子どもを育てる

○めざす子ども像

「考えてやりぬこうとする子ども」（思考力・表現力・判断力・想像力・粘り強さ・挑戦力）

「生き生きと明るい子ども」（元気な体・豊かな心・生活の自立・主体性）

「美しくあたたかい心の子ども」（思いやり・慈しみ・協同・協力・社会性）

２　本年度の重点目標（課題）

**本年度の研究テーマ（重点的に取り組むこと）**

**「おどろき！ときめき！ひらめき！が生まれ育つ環境づくり**

**～情緒の安定とともに感性と表現力を豊かに～」**

**１心も体も弾ませて意欲的に環境（人･物･事柄）に関わることができる保育**

子どもたちが「なんで？」と驚いたり「どうなってるの？」とときめいたり「なるほどそういうことか！」とひらめいたりと絶えず心を動かしながら関わることができる環境を構成しながら、自ら選んで遊ぶ時間の活動の充実を図り、友達とのびのび、生き生きと安心して活動できる園を目指します。

**２感性と表現力を豊かにする体験と言葉の獲得**

日本語のきれいな響きとリズムを感じ取ってほしいという願いから「気持ちの良い挨拶・返事」さらに「伝わる言葉・わかる言葉・美しい言葉のやりとり」など職員がモデルになって取り組みます。そして、子どもの内面を理解しながら関わり思いを言葉で伝え合えるように日々の保育を大切にします。また、「絵本の読みきかせ」と「わらべ歌や童謡を歌う」時間を日課とし、感性や表現力を高める実践を重ね、笑顔が溢れる園を目指します。

**３生活リズム・基本的生活習慣の確立を保護者と共に**

子どもの情緒の安定を図り、就学に向けて基本的生活習慣の確立のため相談や、情報提供など園と家庭とが協力する園を目指します。

３　本年度　河内こども園　学校評価（自己・学校関係者）評価書

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 評価指標 | 考　察 | 園総合評価 | 評価委員評価　　　（学校評議員評価） |
| 教育課程・指導計画 | 職員が共通理解し、指導の重点や研究テーマに沿った保育に取り組んでいる | ４ | ４ |
| 行　　　事 | コロナ禍で延期することもあったが、園児の育ちにポイントをあて行事の見直しを行うことができた | ４ | ４ |
| 組織・運営 | 園の課題を明確にした経営計画をベースに同僚性を生かした組織作り・園運営をしている | ４ | ４ |
| 学級経営 | 寄り添い内面理解をすることを保育の基本とし温かい人間関係を構築している | ４ | ４ |
| 特別支援教育 | 関係機関と連絡し合いながら、一人一人の困り感を理解しながら援助や環境作りをしている | ４ | ４ |
| 安全管理・保健指導 | 避難訓練や安全点検を毎月行い職員間で安全に気をつけるようにした。また、情緒の安定のためメデイアコントロールや絵本の貸出しなど家族との時間を大切にする取組を推奨している | ４ | ４ |
| 研修（資質向上） | 園外の研修に一人1回は参加し復命をすることができた。園内研修の限られた時間の他に、個々で日々の保育のアドバイスを職員間で話し合い、子どもや保育について語り合うことができた | ４ | ４ |
| 情報提供・保護者・  地域との連携 | 保護者と日常的な情報交換に加え、1学期に3上は個人懇談、3未は希望懇談を行った。情報提供では園の思いと考えが伝わりにくい家庭もあり、情報発信の課題がある | ３ | ３ |
| 小学校との接続・連携 | 園と小学校職員同士が話し合いの場をもち、園児・児童が互いに学ぶことのできる交流の場を設けている | ４ | ４ |
| 子育て支援 | 園生活の出来事や子育てに参考になることをを保護者に伝え、保護者が必要とした時に安心して相談のできる関係づくりに努めている | ４ | ４ |
| 食育の推進（給食） | 野菜栽培を通して、育てることや食すことの喜びと美味しく食べられることへの感謝の気持ちがもてるようにしている | ４ | ４ |
| 食事の提供（調理） | 調理担当と園児と職員のコミュニケーションを図ることでより美味しく食べることができるようにしている | ４ | ４ |

４　その他必要な評価

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 評価指標 | 考　察 | 園総合評価 | 評価委員評価（学校評議員） |
| 信頼される職員 | いつも明るい挨拶と笑顔の対応を心がけている | ４ | ４ |
| 健康な心と体 | 職員同士が思いやり、周りをみてできることを進んでする協力体制ができている | ４ | ４ |

５　本年度の重点課題及び総合的な評価結果の考察等（学校関係者評価委員総合所見含）

子ども達の様子を1年間行事ごとに評価委員の方に見ていただいていたので、子ども達の様子もわかってもらえていた。保護者の方もアンケートの結果では概ね良い結果をいただいた。

日々子ども達のために職員が協力し園全体で子どもの教育･保育に携わっている様子がうかがえ、職員の働きを褒めていただいた。また、子ども達の様子も、のびのびと遊んでいること、言葉で思いや考えを伝えようとしていること、困難なことにも挑戦しようとすること、友だちにも優しく寄り添えることなど心の育ちがあると評価していただいた。保護者アンケートのなかでは、気が乗らない登園もあったようだが、帰る時には楽しい様子を子どもから聞いたという声もあり、気が乗らなくても園での過ごし方で子どもの気持の変化もあり園での活動や友達の存在は大きいと感じた。保護者や兄弟が休みの時はやはり家庭がいいので登園を渋ることもあると思う。園も好きだけどやっぱり家庭が好きということはいいことだと話した。

コロナ禍ではあったが、行事は子ども達の今の段階で必要とするかどうかを検討しつつ行うことができた。小学校との交流は昨年よりも進んで交流会ができた。これからも必要なことだと話した。園での活動の多くを高く評価していただいた。

園だよりや手紙を配付するが、きちんと見てもらえているのか、内容が理解できているか、伝わっているのかという家庭が増えてきている。園からの伝え方や発信方法や見やすさ読みやすさの工夫をしていく時代にもなってきているのではないかという意見もいただいた。

６　評価結果・考察等（学校関係者評価委員総合評価）を受けての具体的改善方策等

園児も保育者も少人数だからこその保育の利点を引き続き行いながら、少人数だから不利なところの改善をしていかなければならない。土曜日合同保育を年度途中から始めた。人数が少ない園から人数の多い園に行くことになり、集団に入りにくい子どももいた。園での活動以外にも、他園との交流をして他園の友達とも慣れるよう園外の子ども達と関わる活動も考えていきたい。交流により集団遊びも楽しめるのではないかと考える。

職員の研修では、リモートや参加型の研修が開催されるようになり研修を受けることができた。また、日々職員間で保育について話す機会も進んでみられた。来年度も職員体制は相変わらず厳しいものではあるので、日々の生活を大事にしていきたい。

手紙や文章だけでなく、対話や会話でも伝え方を発信する工夫を考えていく。